

花時計



vol. 46

2025 March

特集

川村学園女子大学のいま

- ✓ アクティブラーニング
- ✓ 聖地巡礼
- ✓ 新任教員紹介
- ✓ 退職教員
- ✓ 川村学園100周年写真集
- ✓ BOOKS 新刊紹介
- ✓ 心理相談センターの活動

川村学園女子大学

我孫子キャンパス／目白キャンパス

川村学園女子大学のいま

「学生生活アンケート」から浮かび上がる 本学学生の姿と満足度

IRセンター 庄司 武史

「学生アンケート」について

本学では毎年、在学生を対象とした「学生生活アンケート」を実施して、学生の学修成果や成長実感、大学生活への満足度等の把握に努めています。調査は例年12月前後に実施され、翌年前半にかけて取りまとめがなされ、学内外に公表されています。毎年、多くの学生の皆さんから回答をいただいており、大学運営に役立つ貴重なデータの蓄積が進んでいるところです。改めまして、ご協力にお礼を申し上げます。

今回、要点を紹介するのは、2023年12月に実施した同調査の結果です。質問数は65問、調査対象者全体の54.4%にあたる445名から回答を得ました。ほとんどの質問の選択肢は「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4択です。ここでの分析は、「あてはまる」= 4 ポイント、「ややあてはまる」= 3 ポイント、「あまりあてはまらない」= 2 ポイント、「あてはまらない」= 1 ポイントとポイント化したもので、ポイントが4に近いほど質問の内容に肯定的な学生が多く、1に近ければ否定的な学生が多いことを意味しています(調査結果の値は小数第2位まで表示しています)。それらを2020年度の結果とも比較しながらみてみましょう。

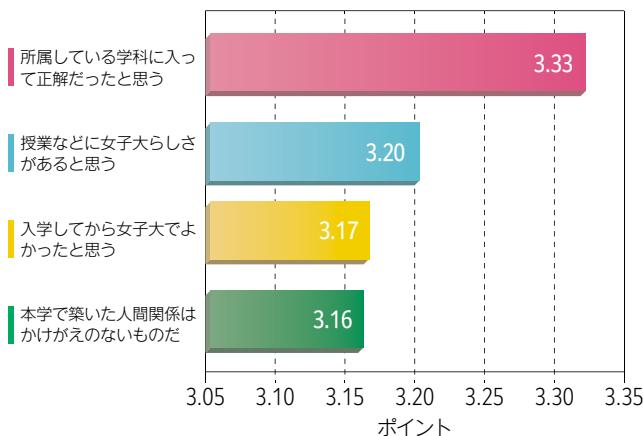


入学した学科で正解！～女子大らしい学びと自ら選択した学科での学びに満足感

まず、学生の皆さんのが本学のどこに満足を感じているかです。これに関連する質問への回答でとくにポイントが高かった上位3項目は、「所属している学科に入って正解だった」(3.33ポイント)、「授業などに女子大らしさがあると思う」(3.20ポイント)、「入学してから女子大でよかったと思った」(3.17ポイント)でした。第3位とほぼ同点の3.16ポイントだった「本学で築いた人間関係はかけがえのないものだ」も含めてよいと思います(図1)。さらに2020年度の結果と比べて今回、とくにポイントが上昇した上位3項目は、「大学の勉強に満足している」(+0.23ポイント)、「本学の学生であることを誇りに思う」(+0.21ポイント)、「本学での学生生活に満足している」(+0.20ポイント)でした(図2)。

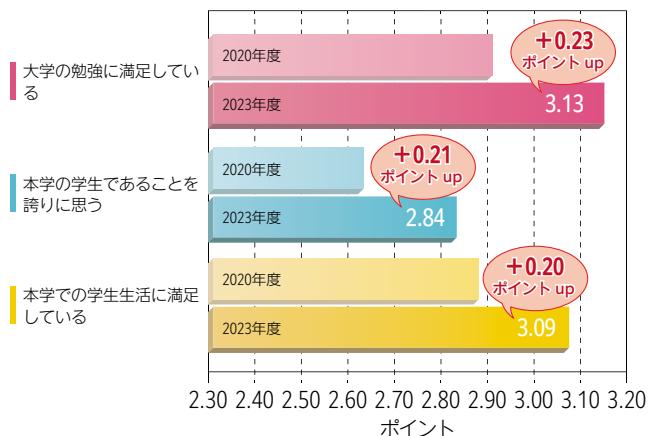


図1



これらを総合すると、本学に集う学生の皆さんには自ら志した学科での勉学と女子大学という環境に満足を感じていることがわかります。大学として高度な水準の教育の提供はもちろんですが、創立100年を迎えた本学は現在も、創設者・川村文子の事績を学ぶ授業をはじめ、女性学やジェンダー論など社会で活躍する女性の輩出に貢献する授業を数多く提供しています。こうした継続的な取り組みが学生の皆さんに評価されているといってよいでしょう。

図2



高い「コミュ力」を身につけた自信を胸に～専門知識の修得だけではない成長実感

次に、学生の皆さんには本学での学びによってどのように成長したと感じているのでしょうか。これに関連する質問への回答でとくにポイントが高かったのは、「専門分野の知識や技術が身についた」(3.24ポイント)、「幅広い教養や常識が身についた」(3.13ポイント)、「コンピュータを使って文章や資料を作る力が身についた」(3.11ポイント)でした(図3)。大学らしい高度で専門的な知識や教養、スキルを提供する本学での授業に、学生

の皆さんもしっかりとついてきて修得している、そしてそのことを実感できている。これは、大学での学びのあり方としてとても良いかたちになっていると思います。

また、2020年度との比較をみてみると、とくにポイントが上昇したのは、「人の話を聞く力が身についた」(+0.32ポイント)、「人に話す力が身についた」(+0.30ポイント)、「新しいことを創造する力が身についた」(+0.29ポイント)、「グループの『先頭に立つ力』や『チームをま

とめる力』が身についた」(+0.27ポイント)で、他者とのコミュニケーションやチームワークの面で成長を実感している学生が、以前より増えているようです(図4)。

現代は様々なコミュニケーション・ツールが溢っていて、それらを使いこなす能力も求められていますが、同時に他者との円滑なコミュニケーションもなしでは済みません。人の言葉に真摯に耳を傾け、自らの主張を冷静に訴える力を身につけた皆さんには、社会のどのような場面でもきっと活躍することができるでしょう。基礎ゼミナールやコミュニケーション能力基礎演習といった科目をとおして、そうした人材の輩出という社会の期待に応えているといえるでしょうし、そのような成長を感じつつ本学を卒立つ学生の皆さんもっと増えることを私たち教職員も願っています。



図3

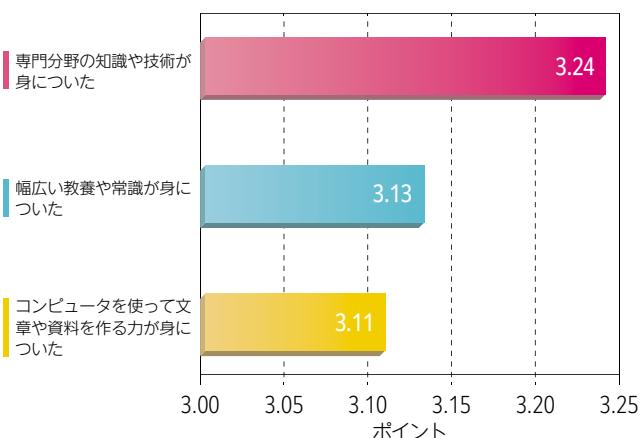
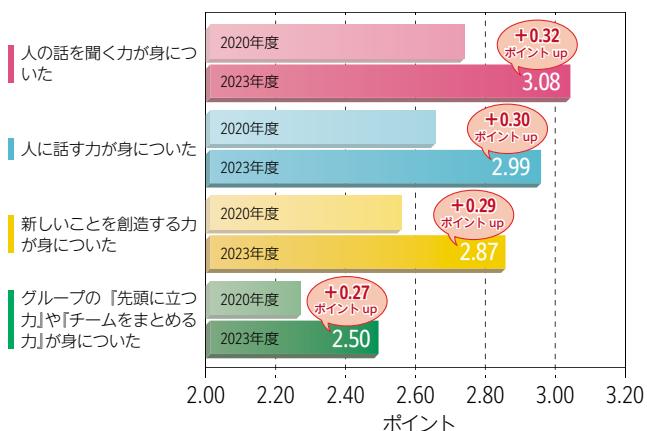


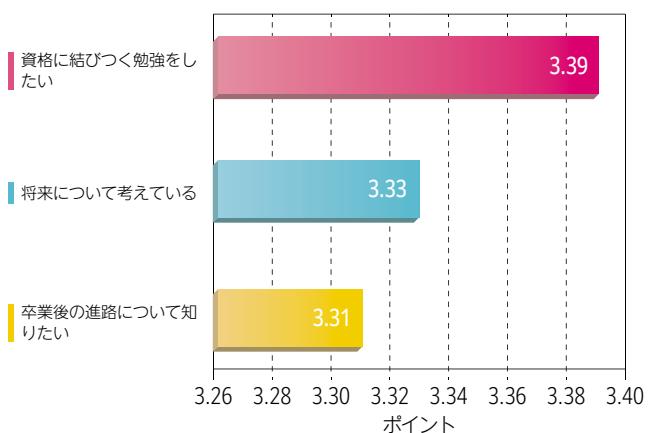
図4



未来は自分で切り拓く！～夢をカタチにする意欲が目立つ

本学の学生は昔から将来への意識が高く、資格取得にも積極的なのですが、今回の調査でもそのような姿が浮き彫りになっています。「資格に結びつく勉強をしたい」(3.39ポイント)、「将来について考えている」(3.33ポイント)、「卒業後の進路について知りたい」(3.31ポイント)と、かなり高い水準です(図5)。さらに学習に充てる時間について、今回の結果では自主的な学習に「5時間以上」充てている学生の割合が14.6%と過去最高でした。単に望むだけでなく、学習をとおして自ら夢をカタチにする意欲に富む学生が多い、これも本学の大きな魅力のひとつだと思います。

図5



いかがだったでしょうか？「学生生活アンケート」は毎年、本学学生の活き活きとした姿を浮かび上がらせてくれる貴重な調査です。次回の調査ではどのような姿が明らかになるでしょうか？私も楽しみにしています。学生の皆さんには、今後とも本調査へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

Active Learning

アクティブラーニング

観光文化学科

気づき・学び・実践！

「現場へ出かけるアクティブラーニング」

観光文化学科では、約10種類の校外学修プログラム「観光文化実践」を実施しています。授業で学んだ理論やケーススタディを実際の観光地や観光産業にあてはめ確認する授業は刺激的で新しい発見の連続です。

景観や街並みを学ぶために公園や寺社仏閣へ出かけたり、空港やホテルへ出かけて実際に働く人の声を聞くことで業界への理解を深めたり、地域や観光地の課題を解決するためのアイデアを出し実践する参加型の授業などがあります。

数あるプログラムの中でも、2023年度と2024年度に実施されている“農業×観光”プロジェクト「観光文化実践VI（担当：准教授 櫻井 正）」をご紹介します。

“農業×観光”プロジェクト「観光文化実践VI」

産業としての「農業」を「観光のチカラ」で、農業が抱える問題である「高齢化による担い手不足」「耕作放棄地の増加」などを「女子大生目線」で解決すべく取り組みました。

南房総市の菜花農園園主による講義

本学と協働する、加藤菜園（千葉県南房総市）の園主（加藤博光氏・20代）を招き、農業を志す“きっかけ”や“思い”、南房総市特産品である、食用菜花への取り組みや栽培方法、天候や害虫などへのリスク管理、菜花の栄養価など、様々なお話しをしていただきました。

講義を聞いた学生からは「農業をしている人のイメージに若い人がいなかったので、20代から頑張っているすごいと思いました」「自分自身の将来の選択肢の一つとして考えてみても良いと思った」などの声が寄せられました。

園主からは「菜花のテーマパーク構想」への思いの発言もあり、農業の6次産業化をおこない、「観光のチカラ」で化学反応を起こし、農林水産業を活性化させ、農山漁村を含めた地域経済を豊かにしていきたいとの思いを共有しました。



「としまMONOづくりメッセ」へ出展

2023年2月29日～3月2日にサンシャインシティ文化会館でおこなわれた第17回「としまMONOづくりメッセ」へ豊島区にある大学として出展しました。



「としまMONOづくりメッセ」とは、豊島区内の優れた製品や高い技術を発信するイベントで、企業や大学が情報交換をする場でもあり、区民がものづくりを体験できるコーナーもあります。ブース内では授業での取り組みを紹介するとともに、加藤菜園の食用菜花を、生活文化学科の学生が作成した料理レシピを添えて観光文化学科の学生が販売し、完売しました。

イベント当日は、学生たちも大活躍！3月3日の「桃の節句」間近であり、来場者への食卓に彩りを添えることが出来たようです。教室での学びをアウトプットする有用な機会となりました。

公式キャラクター・アクティブな女の子

“トコちゃん”が誕生

このようにアクティブに活動する観光文化学科から公式キャラクターが誕生しました！その名は“トコちゃん”。誕生の経緯は、とあるオープンキャンパスの日に作者でありオープンキャンパスアドバイザーでもある2年生が黒板にチョークでササッとお絵描きしてくれました。描かれた女の子が愛らしくて皆が感動！そこから工夫を重ねて“トコちゃん”が生まれました。



「トコちゃんは、どんな場所へもトコトコと移動し、観光が大好きで、休日はいつもキャリーケースとお気に入りの日除け帽子を欠かさず持っています。胸につけているのは学園の校章でもある鶴のバッジ。帽子の羽は、色々な場所へ出かけられる願いを込めて描きました。（作者談）」

トコちゃんの誕生をきっかけに、これからも観光を学ぶ学科らしくアクティブに活動していきます。（山田 祐子）

幼児教育学科

『幼児指導法総論による活動： 幼児指導法総論実践(園行事運動会)のご紹介』



前期開講科目「幼児指導法総論」において、授業の目的や内容をもとに学びを深める機会として4年生が幼児指導法総論実践(園行事運動会)を計画し実践しました。

また、本科目と他の科目「保育内容の理解と方法(音楽)：1年生」「保育内容の理解と方法(造形)：1年生」「環境：2年生」「幼児理解の理論と方法：3年生」との関連から、各々の科目の目的・ねらいをもとに同じ園行事実践に参加し、理解を深める機会となりました。

この実践を通して、学生が交流し合う中で刺激し合い、学びが広がり・深まり、さらに本学科の1・2・3・4年生それぞれの良さを発揮することが出来ました。これからも「ひと・もの・こと」の出会いを大切に様々な経験を積んでいってほしいと願っています。(北村 真理)



【幼児教育学科学生による子育て支援活動： ONE+ (オネプラス)】

ONE+は幼児教育学科学生有志による地域子育て支援活動を目的としたボランティアサークルです。昨年度の鶴雅祭ではNPO法人あそび環境Museumアフターパーバンによる親子表現あそびワークショップを実施、今年度は川村学園女子大学附属保育園子育て支援センターのラブリーデイに参加しています。地域の子育て家庭とふれあうことで学生の学びが広がり、深まり、さらに学生同士が主体的に学び合う機会となっています。(江村 綾野)



史学科

史学科は日本と世界の歴史を広く、アクティブに学べる学科です。

1年生は日本史・東洋史・西洋史の研究入門講義を通じて、学問としての歴史を学ぶ用意をします。まったく新しい環境での学びがスタートするなか、教員や学芸員など資格関係の科目や、他学科の科目を履習する学生も少なくありません。2年生になると、古文書・史書などの文献史料や歴史にかんする一般書を購読する演習が加わります。1・2年のあいだに身に着けた基礎をもとに3年生では各自2つのゼミに所属し、特定のテーマについて自分自身で調べ、他の学生の前で報告するトレーニングを積みます。ゼミの選択にともなって専攻する時代や地域が絞られていくことになります。授業の一環として能・文楽・歌舞伎・オペラな



どの鑑賞教室があるのも本学科の特色となっています。鑑賞を終えて仲の良い友達と楽しそうに感想を述べあっている学生を見るのは、引率教員にとってもうれしい瞬間です。

4年生は指導教員のゼミに所属し、卒業論文を執筆します。就職活動も始まるなか、多くの文献を調べて論文の用意を進めるのはやはり大変です。しかしこうした経験のなかで養われる「調べる力」「考える力」「書く力」こそが、史学科卒業生の大きな財産となっています。4年生では毎年夏季休業中に卒論合宿を兼ねてゼミ旅行を実施するゼミも多く、今年度は西洋史の原田ゼミが長崎県、東洋史の高津ゼミ・日本古代史の堀部ゼミが宮城、日本中世史の長崎ゼミが鎌倉に行きました。ゼミ旅行の行先や旅程の計画も学生を中心に行われ、卒業を控えて同級生と交流を深める機会になっています。



今年度の史学科の新たな試みとして、学生の自習用にセカンドルームを設けました。これまででも学生研究室で学生同士教え合いながら勉強する光景が良く見られていきましたが、まだ大学に慣れない新入生や、静かに落ち着いて勉強したい学生のニーズに応える場になつていけばと思います。

(長崎 健吾)

心理学科

写真Aは、直径4.5cmの錘です。重さが記載された裏側から錘を撮影しています。形状は皆同じで、表側からは重量表記は見えませんが50、52、54、56、58、60gの6種類があります。表面には小さな持ち手(写真B参照)がついた錘です。さて、この錘は何に使うのでしょうか？

私たちヒトは昨今精度高まる測定機器に勝るとも劣らない感覚能力を持っています。昨今使用頻度減っている1円硬貨は1gですが、私達は1円硬貨1枚と2枚の重さの違いがわかるのでしょうか？

1円硬貨で重さの比較をすると、見た目(枚数)も判断材料となり、枚数(1枚か2枚)だけで両者の重さの弁別は可能です。つまり、ヒトは重さだけでなく見た目(視覚)を判断に使うことができるという優れた能力も持っています。それ故、重さだけの感覚能力を正確に測定するために写真Aのような見た目が同じ錘が使われます。

正確な感覚能力の測定には、このような形状差異ない錘を使うだけでなく、重さの違い(弁別能力)を計る工夫(測定法)が必要となります。そう、この錘を使った実験の授業が、心理学科2年生の必修として設けられています(心理学実験(入門))。主にこの測定法(恒常法)を学ぶためのものです。この測定法では、写真Bのように2つの錘を比較します。その際ポイントが一つあります。一方は必ず50gなのです。

みなさまは視力検査を受けたことがあるはずです。Cに



写真A



写真B

似た形状のもの(ランドルト環)が提示され、開いている向き(上・下・左・右)を回答するのがポピュラーです。開いている向きは4つ。正確に見えていなくとも偶然正解を回答することがありますので、正しい弁別回答に含まれる偶然の正解を相殺するために弁別を複数回行います。だから視力検査では、同じ視力のランドルト環の弁別を複数回確認されるのです。



さて、写真Bのような2つの錘の比較ですが、50gと他5種類の錘を複数回比較しますので、比較の回数は5回です。でも、たとえば50gと60gを比較するとしても左右の位置を入れ替えがあるので、5回×2で計10回の比較を行います。この10回の比較は、錘の位置や比較する錘の提示順はバラバラ(ランダム)にしますので、純粋に錘の重さ比較となります。ただ、比較の回数は10回だけではなく… 教科書的には250回!! それは、正しく弁別された回答に含まれる偶然の正解を相殺するには必要な回数ですが、2コマ続きの授業(180分)でも2人ペアで行うと時間が全く足りません(悩)ので、100回にしています(がそれでも大変です)。

この実験、学生には多少不評ですが、このような実はルールを定めた単純な比較の繰り返しで私達の感覚能力、すなわち私たちのこころを測定することを実感してもらいます。来春も心理学科2年生は錘の比較をしているのでしょうか。

(田中 裕)

大学院

大学院 臨床心理学領域では、毎年オレンジカフェで音楽療法を行っておりましたが、今年は大学院生にバイオリン弾きとビオラ弾きがいたので、ピアニストの伴奏でパッヘルベルのカノンを演奏してもらいました。1曲を前半と後半に分けて前半をバイオリン、後半をビオラの順番で披露してもらい、音色の違いを参加者に聴いてみたり、大きさを比べもらったりしました。

その後、坂本九の「上を向いて歩こう」をピアニストの伴奏で大学院生たちが工夫して作った振り付けを全員で踊りながら歌いました(写真の左端に振り付けのイラストがちょっとだけ写っています)。

メインプログラムではトーンチャイムやベルを使って車座になってアイコンタクトをしながら即興で簡単なメロ



ディを作り、ピアニストの演奏で曲を仕上げてもらいます。リズムも参加者が決めるので自分達の曲ができた!という感動を味わえます。

最後に故郷をピアニストの伴奏でバイオリンの音色を聴きながら合唱を行いました。

その日のアンコールは、参加者の誕生日だったので、ピアノとバイオリンの伴奏でみんなで「Happy Birthday to You」を歌いました。参加者さんが泣いて喜んで下さったことが印象的でした。(簗下 成子)



国際英語学科

国際英語学科がある目白キャンパスは、JR山手線「目白」駅から徒歩約3分という立地が自慢のひとつです。国際英語学科はこの立地を活かしてさまざまな学外活動を行っています。



1年生が履修するEIA Iはネイティブ教員が担当する英会話の授業ですが、11月にはキャンパスから徒歩10分ほどのところにある目白庭園で「通訳ガイド体験」を行います。まず、学生たちはネイティブ教員を外国人観光客に見立て、キャンパスから目白庭園まで英語でガイドします。さらに、授業の中で前もって庭園をどのように説明するか考えて準備しておき、園内の風景や建造物などについて英語で解説します。

さらに、2年生以上が対象の国際コミュニケーション演習(3)では6月に明治神宮で、3年生以上が対象のキャリア・イングリッシュIでは7月に浅草寺で「通訳ガイド実習」を行います。学生たちは授業の中で明治神宮と浅草寺の歴史や建造物、参拝の作法やその意味について英語で説明する準備をし、練習を重ねて当日に臨みます。当日は“Volunteer Guide”と書かれた札を掲げ、外国人観光客の方々が興味を示し、協力してくださるのを待ちます。外国



人観光客の方々はいつも学生の解説に熱心に耳を傾けて下さり、ときには会話をはずみます。実際に外国人観光客の方々をガイドすることで、実習に参加した学生たちは大きな自信をつけています。

また、3年生以上が対象の言語コミュニケーション特講IVは能楽を研究しているネイティブ教員が担当し、英語を通して能楽について学ぶ授業ですが、6月には渋谷区千駄ヶ谷にある国立能楽堂で実際に能と狂言を鑑賞します。



鑑賞の前に出演者の方が能楽について実演を交えながら解説してくださいるので、はじめての鑑賞でも肩の力を抜いて楽しむことができ、日本の伝統文化を理解する絶好の機会となります。

このように、国際英語学科はさまざまな活動を通じ、実社会で役立つ英語運用能力を培うことを目指しています。

(佐藤 翔馬)

児童教育学科

パンパカパーク「合格率100パーセント達成」

スローガンは、「先生になりたい。あなたのその夢叶えます」。

今年度、4年生は教員採用試験合格率100パーセントを達成しました。1年生に入学した時はコロナ禍でしたが、声をかけ合い絆を深め見事に大きな夢を叶えました。提出



全員合格を目指し気合を入れる(4年生)

物や指導案は、一人一人が高みを目指し、納得のいくものを作成しました。めあてに、「全員現役合格」を掲げ、共有のホルダーをつくり確認してきました。切磋琢磨し成長を遂げた4年生を、後輩たちはあこがれの視線で見つめています。しかし、4年生は言います。「この学科には、様々な体験があり、それが私たちを成長させてくれるのだ」と…。ここでは、体験のいくつかを紹介します。

1年生は、6月、基礎ゼミナールにおいて、近隣の我孫子第二小学校を訪問し、各学年の授業を参観しました。指導する側にスポットをあて参観することで、たくさんの学びがありました。校長先生から、「先生のすばらしさ」についてご講話いただきました。

2年生は、前期に布佐小学校、後期に布佐南小学校に行き半日体験をしました。T2として入ることで、児童を支援するポイントを学びました。また、我孫子第三小学校にて、英語の授業参観をしました。



布佐小学校の校長室にて(2年生)

3年生は、後期に「教育実習」に行きました。ありがとうございます。毎年、市内の小学校がほとんど受け入れてくださっています。4週間ですが、学生たちは、児童と関わりともに汗と涙を流すことで、教師という職業のすばらしさを再確認して戻ってきました。また、7月上旬、「ちは夢チャレンジ特別選考」に挑戦しました。



ちは夢チャレンジ特別選考に向けて(3年生)

他にも、教員採用試験に向けて、日頃から教職教養や専門科目の対策を行い、夏休みには二次試験の対策講座を実施し、個人面接や模擬授業、小論文などで実践力をつけました。笑顔で学び合っている姿に先生達は、目を細めています。(横山 悅子)

日本文化学科

日本文化学科では2023年度から民俗調査実習を実施しています。実習を通して学生が民俗学的調査の手法を学ぶとともに、日本の民俗文化に関する知識や現在の伝承状況について理解を深め、さらに学生と現地協力者との交流を通して調査地域における民俗文化の見直しを図ることを目的としています。2023年度は神奈川県愛川町半原地区、2024年度は神奈川県三浦市三崎地区を調査地として実習を行い、報告書の刊行・頒布を行っています。本実習は帝京大学の民俗学研究室と合同で行っています。

調査に先立ち、班ごとに自治体史や報告書などを参考にしながら、具体的な調査項目を作成しました。2大学との協同で行っているため、Zoom (Web会議ツール) やDiscord (ボイス・チャットアプリ) を用いて準備や聞き取り内容の整理、執筆を進めました。こうしたICTツールの活用や他大学との調整も大切な学びになりました。

調査は地域の方々にご協力いただき、2時間の聞き取り調査を4セット行いました。じっくりとお話を伺い、そのなかで質問し、ノートに記録していきます。こうした時間は学生たちの日常にそうないことで、その難しさに気付くことが多いようです。それでも次第に慣れていき、初めはバラバラだった情報が繋がっていき、学生は自身とは異なる生活や文化を知っていきます。こうして自己を相対的に



見る視点を養い、柔軟な考え方を身に着ける機会になりました。



調査後は班ごとにデータを整理し、執筆・編集を行い、ご協力いただいた方々に報告書を頒布しました。もちろん不十分な点もありますが、地域の方々に歴史や生活を振り返る良い機会になったという声をいただきました。

地域の方々や他大学の学生たちと交流することで自己を相対的に自覚し、調査した記録を地域社会に還元する。そして協力いただいた方々に感謝する。本学の建学の精神に沿った教育実践の一例と言え、今後も続けていきたいと考えています。

(伊藤 純)



聖地巡礼 大学でのドラマ撮影について

生活文化学科

川村学園女子大学は花と緑が美しいキャンパスで、多数のドラマや映画のロケ地になっています。私たちは川村学園女子大学に誇りを持っており、川村学園女子大学の魅力をより多くの方々に知ってもらいたいという学生の想いをイベントという形で伝えようと考えました。そこで、生活文化学科の学生が主体となって、キャンパス内のロケ地をめぐり、本学の魅力をより多くの方々に知つていただく「聖地巡礼ツアー」を企画しました。イベントは高校生をはじめ多くの方々とコミュニケーションをとり、大学の魅力を伝えることと、地域コミュニティの活性化・貢献も目的とし、オープンキャンパスで開催しました。



ロケ地を紹介するにあたり、ドラマや映画のシーンを丹念に調べ、撮影時に立ち会った職員の方に撮影エピソードを聞き、聖地巡礼マップを作成しました。ツアーでは、ドラマや映画でどのように撮影されていたかも紹介でき、ロケ地での撮影を楽しんでいる参加者もいらっしゃいました。

この企画に共感し、協力してくれた他学年・他学科の学生、私たちの考えに真摯に向き合い、迅速かつ丁寧にサポートしてくださった先生方のおかげで、企画を成功に導くことができました。また、参加者からは、「また参加したい」、「大学生と話せて、実際のリアルな話を聞けてよかったです」など好評をいただきました。

今後は、オープンキャンパスだけでは伝えきれない大学の魅力を発信できるイベント等を実施する必要があると考えており、そのためには学生の意見を積極的に取り入れ、より広い視点から企画を立案・実行できる体制を整えることが重要だと考えています。また企画を通して、学年・学科を問わず学生同士のコミュニティを広げる場でありたいとも感じています。「聖地巡礼ツアー」の運営を通して、本学には、共感を得て協力し合うという素晴らしい文化が根付いており、その環境の素晴らしさを強く感じました。



現状、生活文化学科の人数に限りがあるため、今後は生活文化学科主体ではなく、大学全体で学生や教職員が一丸となって取り組むことで、次世代に受け継ぐ努力が求められるのではないかでしょうか。

(村川 結奈)

事務部(庶務)

大まかな流れ

まず、撮影が可能かテレビ局か実際に撮影をする制作会社から電話がかかってきます。

内容を聞いて大学のイメージに合わないときはお断りいたします。つぎに、いつ、どこを使って撮影をしたいか確認いたします。

また大まかなことしか決まっていない場合は、まずスタッフに大学施設を見に来てもらって並行して利用したい日を絞り込んでいきます。

スタッフが気に入ても写真を見て監督が気に入らなかつた場合お断りの電話が来ます。

監督が気に入っていてもほかの場所がより条件が良ければダメになります。

本学で撮影になる可能性は1/10ぐらいの確率です。
なかなか撮影までうまくいかない場合が多いです。

大変なこと

やはり一番大変なのは予定が合うかどうかです。

平日は授業があるので基本的に受けできません。仮に日取りが合いで本学で撮影をする方向で決まつてもキャストさんの予定によっては別日にしたいと言つくることもあります。その場合は学内の取りまとめをやり直すこととなります。

次に大変なのは機材に関することです。

ドローンを使いたい、クレーンを持ち込みたい、ライトをたくさん点灯させたいので電源車を入れたい、花びらをまきたいのでデンプンで作った溶ける花びらを持ち込んでいいですかなど様々です。

まとめ

撮影側の希望も様々であります。大学としてできることできないことがあります。それをり合わせていくことが大変ですが、学生が喜んでくれていると聞くので、やりがいのある仕事です。(熊谷 憲輝)



映画版 ラジエーションハウス

大教室にクレーンを持ち込み
その後にカメラをつけて撮影しました。

しばらく運びましたが、
正直大きなクレーンがよく入つたと思います。



アンサング・シンデレラ

桜を強調するためデンプン
で作られた花びらを扇風機で
巻きました。

デンプンなので雨でとける
という説明でしたが、本当に
溶けるか心配でした。



教場2

霧を出すために(やわら
かい光加減となる)蒸気が出る
スモークを派手に吹きました。
火災報知器が反応しないのか
心配でした。



くるり~誰が私と恋をした?

200人のエキストラでお祭り
の風景を演じました。

普段の桜並木とは見違える風
景になりました。

文学部 国際英語学科

山本 麻里耶 講師

国際英語学科に着任いたしました山本麻里耶と申します。本学では、「国際文化特講Ⅰ」、英語の資格、共通教養の英語などを担当しています。専門は英語圏児童文学で、特に19世紀末から20世紀にかけてのファンタジーを研究しています。中でも動物の登場する物語に関心があり、ドラゴンなどの想像

上の動物やクマ、イヌ、ウサギなどの実在の動物が活躍する物語が好きです。現在は、19世紀末の英語圏児童文学におけるドラゴンの表象の変遷について考えています。

ファンタジーに登場する動物は、洋服を着ていたり、言葉を話すことができたりするものも存在し、彼らは人間やその他の動物と仲間や友達になるために、敵意がないことを示したり、色々な努力を重ねながら生活しています。動物は人間と違っているからこそ、人間にはない能力や創意工夫によって物事を解決したり、他の仲間と協力したりして困難を乗り越えていくため、奇想天外な方法を用います。こうした方法を読むと、物語内の人々も読者も驚かされたり、笑ってしまったりしますが、その自由さがファンタジーの魅力のひとつだと考えています。様々な授業を通して、ファンタジー文学の面白さ、物語が作られた時代や文化背景を学生の皆さんに伝え、物語の中で起こる不思議なことについて、その意味と一緒に探っていきたいと思います。

また、私が担当する英語関連の授業の中には、短期留学の「ニュージーランド研修」があります。2025年度からは、研修の出発時期を「夏」に変更して、夏休み中に3週間ホームステイと職業体験を行います。現地に行って困らないように、事前学修では、基礎的な英語、日本と海外の文化の違い、英会話などを学習して準備し、研修後は、事後学修として現地での学習成果を英語で発表してもらったり、報告書を書いてもらったりする指導を行います。この研修には、我孫子キャンパスと目白キャンパスのどちらに通っていても参加可能です。海外で生活したり、英語を学んだりすることに興味のある方は、ぜひお声をかけてください。海外で生活してみたいという希望を一緒に叶えてみませんか？

文学部 日本文化学科

張 明 講師

日本文化学科に着任いたしました張明と申します。専門は日本語学および日本語教育学であり、特に現代日本語における語彙や文法形式の意味用法に興味を持っています。コーパスや、テレビ番組、X(旧Twitter)から実例を収集し、実際の使用状況や意味を分析・考察することで、日本語教育に役立つ記述研究を目指して研究活動を行っています。

本学では、「日本語学」「日本語の歴史」「文章表現法」などの科目を担当しています。また、約5年間都内の日本語学校で勤務し、日本語教師としての実務経験も持っています。この現場経験を活かし、「日本語教授法」などの日本語教育に関連する専門科目も担当しています。

皆さんは普段意識していないかもしれません、日本語には多くの興味深い規則が隠れています。例えば、日本語の五十音表がなぜ「あかさたな」という順番になっているのか、「キムタク」「逃げ恥」「ポケモン」などの略語がなぜ4文字であることが多いのか、考えたことはありますか。また、「廊下で走ってはいけません」と「廊下を走ってはいけません」、この二つの文の違いは何でしょうか。日本語母語話者でもなかなか簡単に答えられないかもしれません、日本語を「外国語」として外から客観的に観察し考える練習をすることで、少し理解が深まるかもしれません。一緒に日本語の持つ規則性と体系性の不思議さ・おもしろさを体験してみませんか。

また、それによって得られた知見を日本語教育に応用することも可能です。特に日本語教員の国家資格制度が設けられることで、外国人習習者に日本語を教える仕事の需要が高まり、社会的地位の向上も期待されます。ぜひ日本語学や日本語教育学の世界を探求してみてください。

生活創造学部 観光文化学科

山下 琢巳 教授

観光文化学科に着任しました山下琢巳です。主に地理学に関する科目を担当しています。

地理というと、中学や高校で習った多くの人が地名や物産、国の貿易統計などの暗記や雑学を思い浮かべるでしょうし、得意・苦手のはっきり分かれる科目というイメージを持たれるかもしれません。

しかしながら、地理というのはそればかりを調べている分野ではありません。私自身の研究テーマは「かつて洪水が多かった川の周辺でどうして人々の生活が成り立っていたのか」です。そのほか、かつては「漁業や鮮魚流通の技術が発達すると、漁港とそれを取り巻く産業はどのように変化するか」も研究しており、それが縁でNHKの人気番組だった「プラタモリ」に出演することにもなりました。

災害に関しては、近年国内の様々な場所で地震や水害が頻発しております、防災は行政から地域住民までみんなで考える大きな課題となっています。その中でもハザードマップは地図を見る力、すなわち地理学が重要な役割を担っています。また、各地に存在する防災施設は、その役割を実際に知つてもらうために一般公開したり、見学コースを設定していることもあります。例えば「首都圏外郭放水路、通称“地下神殿”は、映画やドラマ、ミュージックビデオの撮影などにも使われており、ファンの人達からすると人気の「聖地」や「観光スポット」と位置付けることも可能です。このような身近な場所が地理の分野と直結しており、しかも観光を考えるテーマにもなっていることを学生さんに伝えていきたいと思っています。

教育学部 幼児教育学科

大澤 里紗 講師

私は演奏学(ピアノ)と音楽教育の研究を行っています。演奏学では、19世紀のドイツ・ロマン派を代表する作曲家ロベルト・シューマン(1810-1856)のエディション研究に注力しています。作品と向き合うとき、私たちと作曲家を直接結ぶのは楽譜です。近年では様々な楽譜が簡単に入手でき、一つの作品にも複数のエディションが存在するため、演奏家にとってどのエディションを選ぶかは非常に重要な問題となっています。

シューマンは晩年に自身の作品を書き直し、改訂版を出版しました。そのため、一つの作品に初版と改訂版という2つの異なるエディションが存在します。シューマンの作品を演奏する際、演奏者はどちらを選択するのでしょうか。一般的には、最後に出版されたものが作曲家の最終的な意図を反映していると考えられます。しかし、シューマンの作品では、演奏者が比較的自由に選択している歴史があります。どちらか一方の版を使うだけでなく、2つの版を混ぜて演奏することもあります。この現象の理由を解明するために、各エディションを比較し、様々な録音資料から演奏家のエディション選択状況を調査しながら演奏の歴史を辿っています。エディション研究では文献、楽譜、録音資料の分析など、多角的なアプローチで作品解釈を考察することで、新たな作品像を見出していく予定です。

音楽教育の分野では、教員・保育士養成校での音楽実技科目に関する実践的研究を行っています。本学では「ピアノ演習」「子どもと音楽」「幼児音楽指導法」などの音楽表現科目を担当しています。「保育者=ピアノが弾ける」というイメージがある一方で、ピアノを苦手とする学生さんも多くいます。私はピアノの演奏技術だけでなく、子どもたちと一緒に音楽を楽しむ気持ちが大事だと考えます。教育・保育者を目指す学生には、音楽経験の有無に関わらず、自身の可能性を信じて学んでほしいと考えています。さまざまな音楽の学びを通して、感性を磨き、一緒に音楽の素晴らしい世界を探求していきましょう。



新任教員紹介



川村学園100周年記念誌

写真で見る
川村学園100年の歩み
飛翔! 輝く未来へ



出版社：出版文化社
発行年：2024年4月

近代日本教育史と
川村学園



出版社：ゆまに書房
発行年：2024年4月
高津、小山(久)、藤原先生ほか執筆

2024年度 退職教員

【退職】本学を退職する教員をご紹介します。
皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

咲本 英恵

日本文化学科 講師

古屋 朝映子

幼児教育学科 准教授

白石 優子

幼児教育学科 講師

北村 真理

幼児教育学科 講師

小山 知子

観光文化学科 准教授

【逝去】ご冥福をお祈り申し上げます。

高橋 裕子

生活文化学科 教授

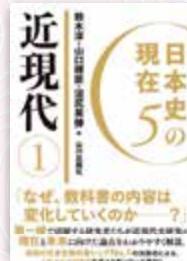
新刊のお知らせ



日本外交の近代史
秩序への順応と相剋 2

史学科 教授
西川 誠 共著

出版社：東京大学出版会
発行年：2024年11月



日本史の現在5
近現代①

史学科 教授
西川 誠 共著

出版社：山川出版社
発行年：2024年7月



中東を読み解く
東大駒場連続セミナー
思想・文化・信仰の遺産

史学科 教授
辻 明日香 共著

出版社：東京大学出版会
発行年：2024年9月



現代日本語の
字音接辞
連体詞型字音接頭辞の
記述的研究

日本文化学科 講師
張 明 著

出版社：花鳥社
発行年：2024年12月



新・子ども家庭福祉
—私たちも子どもに
何ができるか—
(第2版)

幼児教育学科 教授
手塚 崇子 共著

出版社：教育情報出版
発行年：2024年2月



ゆうとゴッホの大ぼうけん!
—絵日記カントリーから
月曜日がきたー

児童教育学科 教授
横山 悅子 著

出版社：銀の鈴社
発行年：2025年2月

心理相談センターの活動

今年の公開講座は不登校児童に焦点を当て、「学校に行きづらい・行かない子どもたちへの心理支援」の講演を行いました（講師：松岡靖子准教授）。当日は暑さが厳しい中にもかかわらず、不登校のお子さんがいらっしゃる保護者の方をはじめ、ご友人の方、学校関係者の方、支援者の方など、様々な立場の方がご来場くださいました。講演後の質疑応答では現場で支援にあたられている方々から活発な質問やご意見を頂戴し、公開講座は盛況のうちに終了しました。心理相談センターでは今後も地域との連携を深めていくことを目指し、相談支援活動の他、地域支援活動の充実を図っていきたいと思っております。



花時計 vol. 46

2025年3月1日 発行日

[発行] 川村学園女子大学 [編集] 広報委員会

〒270-1138 千葉県我孫子市下ヶ戸1133番地
TEL 04-7183-0111(代表)
ホームページ <https://www.kgwu.ac.jp/>

■自白キャンパス
〒171-0031 東京都豊島区自白3丁目1番19号
TEL 03-3951-0111(代表)

大学ホームページ

facebook

twitter

LINE

Instagram

